

「通いの場」通信

Vol.30

令和4年7月29日発行

熱中症にも
気を付けて！



地域では身近な公会堂や集会所を活用した通いの場も多くありますが、開催する場所や内容は千差万別です。市内で広がっている通いの場のなかには、自宅や元職場などを活用して、その場所ならではの居心地の良さやエリアを超えたつながりづくりから、オリジナリティあふれる居場所づくりが進められています。

多彩で柔軟な居場所で広がっている 通いの場を紹介します！

倉敷
地区

仕事場が通いの場に！

老松地区にある「ポレポレハウス」は、代表者の仕事場として使用していた借家を、「いろんな人が交流できる場所にできたら」との思いから始まった地域サロンです。ここでは手芸やスマホの講座、介護座談会、ストレッチヨガなど、メニューが盛りだくさん。

なかには近所に住むボードゲームが得意な大学生が、豊富な種類のゲームを教えてくれる「ボードゲームカフェ」もあります。大学生が先生となり、集まるメンバーに合わせてやさしくルールを教えてくれるので、大人も子どもも一緒に楽しめます。ゲームが少し難しければ、メンバー間で自然に気づかい、みんなが楽しめることを意識した場づくりが行われています。



真備
地区

青空の下が通いの場に！



毎週月曜日の9時頃から、川辺地区にある市営川辺団地の広場で住民が集まって、ラジオ体操が行われています。当初は4名くらいの集まりから、お隣さんと誘い合ったり、体操を見て関心を持った人が参加されたりと、段々と青空の下で集う人数が増えてきました。

ラジオ体操の後は、休憩がてらのおしゃべりを楽しんで、家に帰ります。ほんの少しの井戸端会議が、顔の見える馴染みの関係を築き、身近な地域で支え合うためのきっかけにもなっています。週の初めに行うこのラジオ体操は、自身の健康だけでなく、団地に元気を広げる効果も生んでいます。

玉島
地区

元店舗が通いの場に！

沙美地区では、元呉服店のスペースを活用して地域の方が集う「沙美スイトピー」が開催されています。

ほぼ週に1回、体操や脳トレ、茶話会等を楽しみ、参加されている皆さんの元気の源になっています。

「〇〇さんは今日はどうしたん？」

欠席された方の様子も気にかけていて、通いの場は介護予防の拠点であり、孤立予防の拠点にもなっています。

また、参加者同士で持ち寄った野菜を提供し合ったり、寄せられた食料品や生活雑貨を一人暮らし等、気になる方へお届けしたりと、普段からのつながりを大切にしています。



児島
地区

おしゃれな

ギャラリーが通いの場に！

琴浦西地区の「サロンヤマボウシ」は、個人所有のギャラリー（三宅素峰記念館）オーナーさんのご厚意と、サロンを地域につくりたいという民生委員さんとの出会いによって誕生しました。

玄関前に咲く綺麗なヤマボウシにちなんで“サロンヤマボウシ”と命名され、毎回元気に体操に取り組んでいます。サロンの開始前には、ギャラリーに展示されている作品を見たり、マスコット犬のポロちゃんと交流したりと、体操以外の楽しみも多いです。

参加者からは「近くにサロンができて本当に嬉しい。ここなら歩いて行ける」との声も聞こえてきます。移動手段を考えるだけでなく、“近くにつくる”という視点も大変素晴らしいことですね。



皆さんの周りにも「こんな所もあるで！」

「こんなこともしょーるで！」という通いの場はありませんか？

通いの場では、たくさんできた野菜をお互いさまの関係で分け合うことも多いですが、社会福祉協議会で取り組んでいる「互互助パントリープロジェクト」では、余った野菜などがあれば、地域のシェア会や子ども食堂などで有効に活用することができます。

通いの場や互互助パントリーについてのご相談は生活支援コーディネーターまでお問い合わせください！



問い合わせ先

倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 倉敷市笹沖180番地 ☎086-434-3301